

世界最大級の旅の祭典でウェールズのセミナーを開催

Wales Now Vol.3

発行日：2016.09.01

TOPICS

- | お知らせ | ツーリズムEXPOでウェールズ・セミナーを開催
- | グルメ | タイニー・レベル、英ビール・フェスティバルで2冠
- | ビープル | ウェールズ政府、企業誘致担当トニー・ゴドフリー
- | インタビュー | タイニー・レベルの遊びどころ
- | 教育 | カーディフでシニア留学研修、体験者に好評
- | トリビア | ウェールズは世界一の「古城の国」!?

「ツーリズムEXPO」でウェールズのセミナーを開催

「ツーリズムEXPOジャパン2016」（東京ビッグサイト）にて、ウェールズの見どころをご紹介しますセミナーを開催します。「ヨーロッパの美しい村30選」に選ばれた中世都市コンウィ（Conwy）などの北ウェールズの魅力を直接お伝えるために、北ウェールズ観光協会会長ジム・ジョーンズが来日いたします。



日時：業界日は9月23日
（11:30～11:55）、
一般日は9月24日・25日
（両日ともに16:30～16:55）
場所：東京ビッグサイト
「ツーリズムEXPOジャパン」
東4～5ホール
「ヨーロッパスクエア」

ツーリズムEXPOジャパン2016
<http://www.t-expo.jp>



Photo: Conwy Castle by Visit Britain, David Angel

「タイニー・レベル、英ビール・フェスティバルで2冠

リアルエールの世界的な復興団体CAMRA（カムラ）が主催する「英国ビール・フェスティバル（Great British Beer Festival）2016」にて、ウェールズの「タイニー・レベル」社が2つの賞を獲得しました。

日本でも人気の「Cwtch（クッチ）」がブロンズ賞、「Hank（日本未発売）」がシルバー賞を受賞。2015年の「Dirty Stop Out（ダーティー・ストップ・アウト）」のグランプリ（Champion Beer of Britain）受賞に続く快挙となりました。

「Cwtch（クッチ）」はウェールズ語で「抱きしめる」という意味のレッドエールで、6種のモルト、2種のアメリカ産ホップを使用した、飲みやすくバランスのとれたビールです。



“子どもたちはラグビーとサッカーが大好き。 好きな食べ物はウェルシュ・レアビットです。”



ウェールズ政府 企業誘致担当
Tony Godfrey (トニー・ゴドフリー) さん

日本とウェールズの架け橋となる人々をご紹介します。今回のゲストは、ウェールズへの企業誘致を15年間サポートしてきた、ウェールズ政府（首都カーディフ本部勤務）のトニー・ゴドフリーさんです。日本、インド、中国が担当エリアです。

— お住まいは？

西カーディフの Llantwit Major に住んでいます。ヘリテージ・コースト (Heritage coast) と呼ばれる自然豊かな美しい海岸がある、歴史的な街です。実は南ロンドンの出身ですが、1999年にウェールズ人女性と結婚したのをきっかけにウェールズに住み始めました。

— ご家族は？

妻と3人の子どもがいます。いずれも男の子で、3人ともラグビーとサッカーが大好き。私もよく一緒にプレーしますよ。週末は、家族とよく

カーディフ・ベイに散歩に行ったり、西ウェールズまで旅行をしたりしますね。だから休日もとても忙しいんです (笑)。

— 好きな食べ物は？

ウェルシュ・レアビット (Welsh Rarebit) です。私たちは「ウェルシュ・ファストフード」と呼んでいます。早く調理できて、安上がりですからね。子どもたちも大好きです。でもヘルシーなんですよ。そうそう、トーストにのせるチーズには、伝統的にはビール、マスタード、塩、そしてウスターソースを入れますが、ソイソース (醤油) を入れるのもおすすめです。

— 勤務地のカーディフでおすすめの場所は？

カーディフはウェールズの首都ですから、見どころが山ほどあります。スポーツがお好きなら、ラグビーのプリンシパリティ・スタジアム (Principality Stadium) がおすすめです。カーディフ・ベイのウェールズ・ミレニアム・センター (Wales Millennium Centre) では、ウェールズ・ナショナル・オペラや芝居、アートが楽しめます。週末に散歩がてら、家族でよく行きます。

— 仕事は楽しいですか？

もちろんですよ！ 仕事を通じて面白い人たちや、素晴らしい製品に出会ってきましたからね。特に日本とウェールズは、40年間以上という長きにわたって、良い関係を築いてきました。私もTOYOTA、SONY、HITACHI、Panasonic、Calbeeなど、日本の素晴らしい企業の皆さんと仕事をしました。私たちは企業の皆さんになるべく長くウェールズにいてもらえるように、そして海外に市場を築く良い経験になるように努力します。「サポートが手厚い」と言ってもらえるのが嬉しいですね。



トニーさんの6歳の息子さん描いた、ウェールズの案内

— 日本の皆さんにメッセージをお願いします。

日本とウェールズには、たくさん共通点があります。美しい環境を大切にしながら暮らし、外から来た人には敬意を払い、歓迎します。同じ価値観を持っていることは、一緒に仕事をする上でとても大切なことです。これからも、ともに新たな可能性を探っていきましょう。

ビールにプロレス技の名前!? タイニー・レベルの遊びどころ

2012年に創設されたばかりの新しいブルワリーながら、さまざまなビールの大会で賞を獲得し続けている、ウェールズの「タイニー・レベル (Tiny Rebel)」社。前号に続き、日本展開を担当する株式会社ジュートの雨宮さんに、その魅力を伺いました。



ニュージーランド産ホップが効いたペールエール「ザ・フル・ネルソン」

ビールのラベルに、ひとひねり

タイニー・レベルのラベルは、デザインが変わっていて楽しいですが、名前も面白いんですよ。ひねりが効いていて。例えば、紹介するとお客さんによく笑われるのが、ペール・エールの「ザ・フル・ネルソン」です。ネルソン・ソーヴィンという有名なニュージーランド原産のホップをたくさん使っていることから、そう名付けられています……「フルネルソン」といえば、プロレスの羽交い締めのような必殺技の名前ですよ（笑）。3種類のホップを混ぜたハイアルコールのIPAの名前なんて、「HADOKEN（ハドークェン）」です。90年代のゲーム界を象徴するソフトからインスピレーションを受けたそうで……。

しかも説明に「Amplified IPA（増幅されたIPA）」と書いてありますが、そんなビール用語はありません。ほとんどが、創業者のブラッドやギャレスらが作った造語なんです。どのラベルも笑えますね。でも飲んでみると、どれもめちゃくちゃウマイ！

“英国No.1”に選ばれた直営ビアバー

ウェールズのニューポートとカーディフには、タイニー・レベルが直営するビアバー「[アーバン・タップ・ハウス \(Urban Tap House\)](#)」があります。2014年にオープンして、その年の「イギリス全土で最高のニューオープン・バー (Best New Bar in Britain)」に選ばれた、注目のスポットです。店内は斬新なデザインで、若者が集まってボードゲームやっていたりと、ソーシャルな溜まり場のような雰囲気が面白いですよ。かといって、年配の人もちゃんといるんです。タイニー・レベルが世代を超えて人気だとわかります。ちなみに僕が訪れたとき、バーのフードメニューには、驚くほど大きなバーガーと、ものすごく辛いつまみもありました。どんなにスゴイのかは……実際に行ってみてください。日本でもビアフェスなどで、「タイニーが好き」「タイニーが飲みたい」と言ってくださるかたが、だんだん増えています。味もラベルも楽しんでいただけるビールです。

タイニー・レベル・ジャパン <http://www.tinyrebel.jp>

カーディフでシニア留学研修、参加者に好評

昨年6月、首都カーディフにてシニアを対象とした英語研修が初めて行われました。株式会社ワールドブリッジの主催による、ホームステイと語学学校がセットになったプログラムで、25名が参加しました。参加者の皆さんから「ウェールズより戻って数週間しか経たないのに、もうカーディフが懐かしい (80歳、女性)」「バスやコッツウォルズへの小旅行も楽しめて、まさに希望通りだった (73歳、女性)」などの声が寄せられています。現在は6月と9月の年2回開催。今年の第2回は、今月9日に渡航予定です (募集は終了)。

体験記をワールドブリッジのHPでご覧になれます。
[「中高年世代の英語文化研修グループコース 留学生ホームステイ体験記」](#)



株式会社ジュート 酒類部マネージャー 雨宮昭彦 (Akihiko Amemiya) さん



2014年、英国No.1のニューオープン・バーに選ばれた「アーバン・タップ・ハウス (Urban Tap House)」のカーディフ店

＼ウェールズは世界一の「古城の国」!?!／

ウェールズには641もの城があり、その単位面積当たりの城の数は世界一です。北ウェールズに位置するコンウィ城、カナヴァン城、ハーレック城、ビューマリス城は世界遺産に登録されています。

編集後記

今夏のウェールズ出張で街なかを歩いていたら、約10年前にホームステイでお世話になったご家族にばったり。一緒にタイニー・レベルのバーに行きました。「うまいだろう？ このビールの会社、創業者がウチの息子と同級生なんだよ」とホストファザー。こうしたカムリの不思議な縁こそ、ウェールズらしい？